

2012年中に新聞報道されたウランバートルにおける犯罪の発生場所分析

在モンゴル日本国大使館

2012年1月1日から12月31日までの1年間に、当地の主要モンゴル語新聞で報道された、ウランバートルで発生した事件のうち、発生場所が概ね特定できたものを、犯罪種別毎にマッピングしました。サンプル数が限られているため、顕著な傾向を導き出すことは難しいと思われませんが、皆様の防犯対策の参考としていただければ幸いです。なお、本資料はあくまで昨年1年間の新聞報道に基づく分析であり、発生場所が特定できない事件、公表されていない事件に関しては記載されておりません。新聞報道のため、人の生命に関わる殺人事件や傷害事件等を数多く取り上げる傾向があります。従いまして犯罪発生が示されていない場所についても犯罪が全く発生していないということではありませんので、充分ご注意ください。

いずれにしましても、外国人は犯罪のターゲットになっているということを常に忘れず、引き続き犯罪被害防止に留意してください。

記

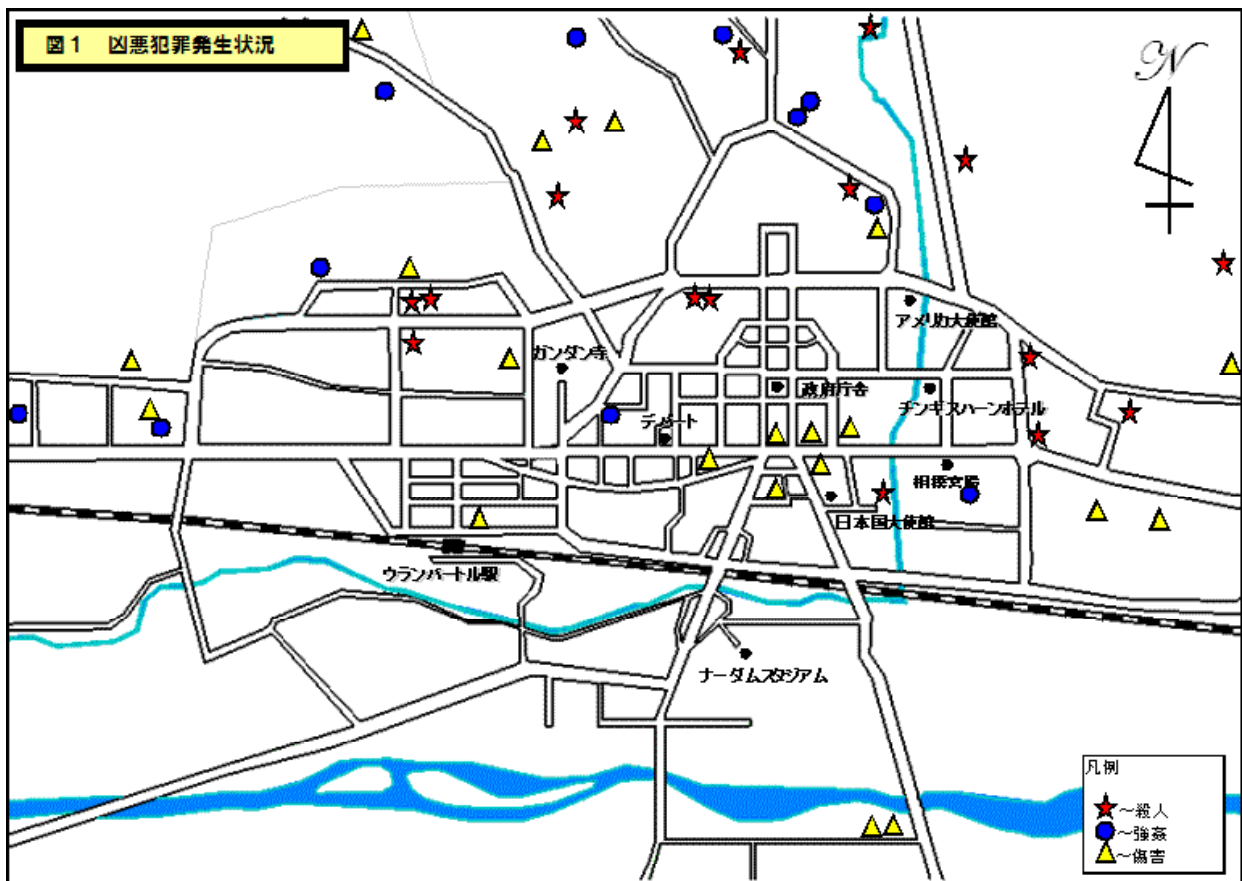
1 行政区別、罪種別件数

	殺人	屋外強盗	屋内強盗	屋外窃盗	侵入窃盗	傷害	詐欺	強姦	合計
スフバートル区	9	5	2	2	2	7	1	4	32
ソングノハイルハン区	15	5	1	5	1	11	0	2	40
チンゲルテイ区	10	6	1	3	1	6	1	3	31
ハンオール区	6	2	2	0	0	8	0	1	19
バヤンゴル区	10	6	5	7	3	11	2	3	47
バヤンズルフ区	25	10	2	3	4	14	0	2	60
市内（場所特定不能）	9	1	0	0	0	1	3	1	15
合計	84	35	13	20	11	58	7	16	244

バヤンズルフ区、バヤンゴル区、ソングノハイルハン区で比較的多くの犯罪が発生しています。特にバヤンズルフ区においては、殺人・傷害事件等の凶悪犯罪が多発しています。

2 凶悪犯罪発生状況（図1）

- (1) 殺人事件については、バヤンズルフ区で特に多発しています。計画的な殺人事件は少なく、飲酒に起因する喧嘩が発展し、突発的に殺人に至るケースが多数を占めます。銃器を使用した殺人は全くありませんが、手口の多くがナイフによる刺殺になっています。中には撲殺等による殺人も発生しています。
- (2) 強姦事件については、スフバートル区、チンゲルテイ区、バヤンゴル区で比較的多く発生していますが、市内全体でも広く認められます。殺人と同様、飲酒した上、犯行に及ぶケースが多く、また幼女を対象とした事件、自分の身内を狙った犯行も多数見られることから、犯行形態が悪質化している傾向にあります。
- (3) 傷害事件については、市内全域で多発していますが、特にソングノハイルハン区、バヤンゴル区、バヤンズルフ区で多発傾向が見られます。ほとんどの事件が飲酒に絡むけんかによるもので、突発的に相手をナイフで刺す事件も多く、被害者の状況によっては殺人の一步手前ともいえるべき事件も複数見られます。



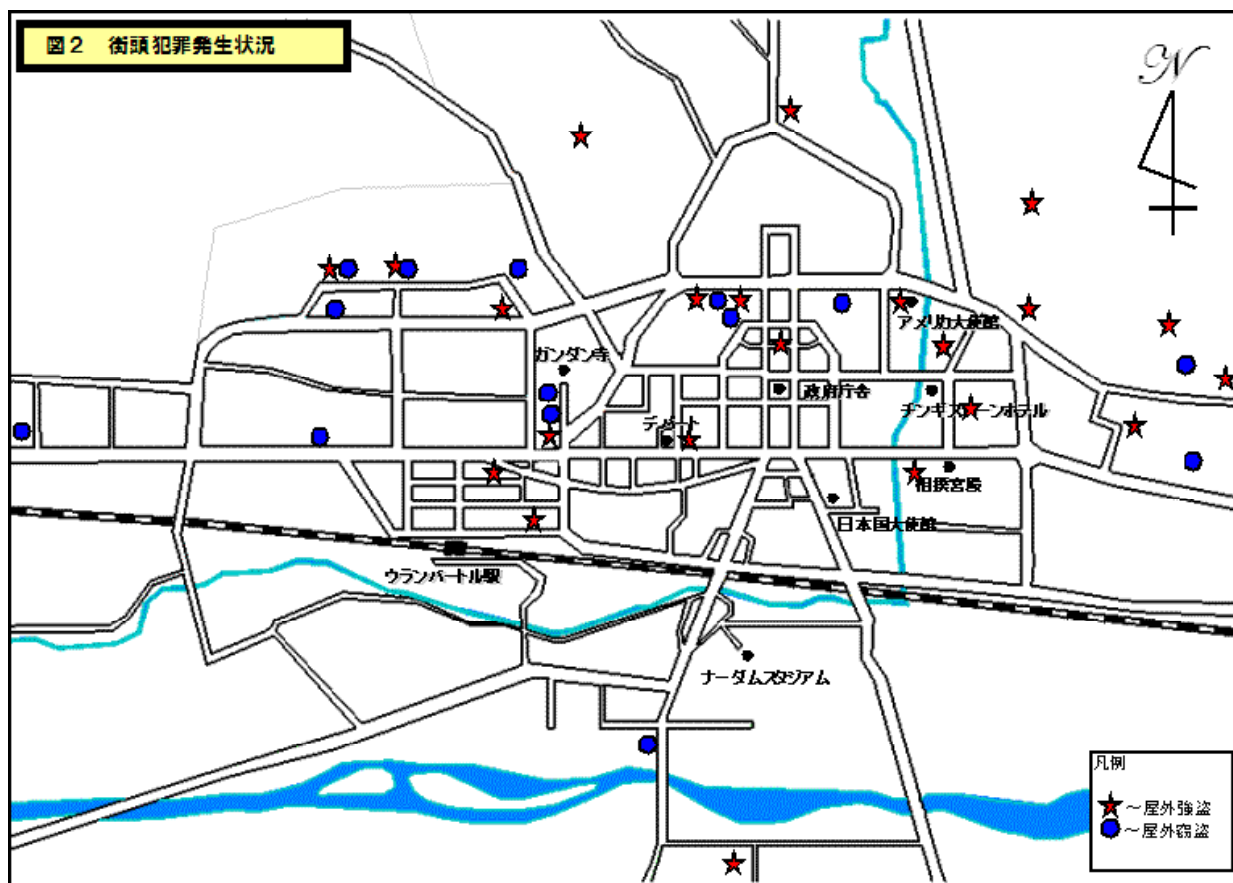
3 街頭犯罪発生状況（図2）

（1）屋外強盗

市内中中心部を取り巻くような地域で多く発生しています。帰宅途中など遅い時間に歩行中，被害に遭うケースが多いようです。犯人の多くが酒に酔った上で犯行に及んでいます，少年グループによる犯行も多いなどの特徴が見られます。

（2）屋外窃盗

屋外強盗とは対照的に市内西側の地域で比較的多く発生している傾向にあります。屋外窃盗のほとんどはスリ被害ですが，スリ事件が新聞報道されるケースが少ないため，地図上に表示されているのは，自動車窃盗や車上狙いなどその他の屋外窃盗が多数を占めています。特に車上狙いについては今年に入り増加傾向にあります。



4 侵入事件発生状況（図3）

侵入強盗や侵入窃盗の発生は、あまり報道されていませんが、外国人を狙ったと見られる高額被害やブランド店内での高級品の盗難事件も発生しています。

モンゴルの住居における施錠設備等については、あまり防犯性の高いものがなく、知識さえあれば容易く解錠できるものが多く取り付けられています。今後、これらの犯罪手口が巧妙化するにつれて、被害が増加することも考えられます。住居防犯対策については生活安全確保の基本ですので、十分配慮してください。



5 邦人被害に係る犯罪発生状況（図4）

邦人被害のほとんどがスリ被害ですが、犯人の中には犯行途中に察知され暴行に及ぶ者もいます。スリや路上強盗については、昼夜を問わず、また周囲の混雑の有無を問わず発生していますので、外出時には常に注意が必要です。

特に被害の多い場所は

- ・ノミンデパート周辺
- ・中央郵便局周辺
- ・ソウル通り周辺
- ・スフバートル広場
- ・ナラントールザハ
- ・ウランバートル駅、空港、市内バス車内

などで、日本人だけではなく多くの外国人が被害に遭っています。また、ナーダム等不特定多数の人が集まるイベント等の開催時にも被害が発生しています。特にこれらの場所においては、できる限り複数で行動し、携行品は必要最低限の現金及び身の回り品にとどめるようにしてください。万が一被害に遭った場合は、周囲に助けを求めるとともに、身の安全を第一に考え、決して無理な抵抗をしないようお気をつけ下さい。

